

令和6年度 一般財団法人 埼玉県校外教育協会委嘱

校外教育研究紀要

研究主題

地域人材を生かした体験活動による心豊かな児童の育成



吉見町立東第一小学校

〒355-0110 吉見町東野5丁目20-1

TEL 0493-54-1510 FAX 0493-54-7387

1 学校概要

本校は、明治6年に設立された大和田小学校に始まり、今年で151年目を迎える。吉見町の東部に位置し、校区には、田畑が広がっている。校区を東西に走るバイパスが開通し、学校周辺の宅地化が進んでおり、新しく転居してきた住民の方が増えている。

児童は、素直で明るく活動的であるが、「物事をじっくり考える」、「(行動する時に)想像力をはたらかせる」ということが苦手な面が見える。保護者や地域の方々は、自分たちの地域の学校という意識が強く、学校の教育活動に理解があり、協力的である。

2 研究の概要

(1) 研究テーマ及びテーマ選定理由

テーマ：地域人材を生かした体験活動による心豊かな児童の育成

選定理由：本校では、地域コミュニティの希薄化により、地域の方と触れ合う機会が減少している。そのことで、相手のことを考えた行動や発言が苦手な児童や、周りの人とのコミュニケーションがうまくいかず悩みを抱えている児童がいる。そこで、地域人材を生かした体験活動を設けることで、児童のコミュニケーション能力や他者を思いやれる心豊かな児童の育成を行いたい。

(2) 研究計画

○研究のねらい

地域の人材を生かした体験活動を行うことで、児童のコミュニケーション能力や豊かな心の育成を行う。

○スケジュール

年間	読み聞かせボランティアによる読み聞かせ
年間	吉見町社会福祉協議会との連携（福祉教育 3～6年）
年間	子供安心110番の家訪問（年間4回）
6月	吉見観音住職による「食育」に関する説話と厄除け団子を食べる体験活動 町内小学校交流会（2年生） 町探検（コメリ・吉見駐在所・丸新石油）
10月	地域人材を活用したキャリア教育（5・6年） 他校合同社会科見学（3・4・5年） ヒートベアーズによる投げ方教室（全校児童）
11月	地域のいちご農家によるいちご栽培の体験活動（3年生） 町内小学校交流会（1年生） NPO 法人熊谷ピンクリボンの会による「がん教育と命の学習」
1月	昔遊び体験（地域人材を指導者活用）（1年生） 武蔵丘短期大学との連携 食育（全校児童） 吉見町立図書館・吉見農産物直売所見学（2年） 東京理科大連携「紙飛行機教室」（5年）
2月	他校合同中学校体験見学（6年）
3月	地域の見守り隊への感謝の会（全校児童） 研究紀要の作成

3 研究の取組

①吉見観音住職による「食育」に関する説話と厄除け団子を食べる体験活動

町内にある吉見観音岩殿山安楽寺の住職をお招きし、食育のゲストティーチャーとして講話をしていただいた。「いただきます」とは「命をいただくことである」という言葉が児童の心にすごく響いた様子であった。また、講話の後で「厄除け団子」を全校で食べる体験を通して児童たちは食べることへの感謝を学ぶことができた。



②地域のいちご農家によるいちご栽培の体験活動

本町の特産品である「いちご」を育てる体験活動を通して、いちご栽培の理解といちご栽培に慣れ親しみ、将来いちご農家を目指す人材を育てることをねらいとして地域のいちご農家の協力のもと3年生を対象にいちごの育て方の講義やいちごの一人一鉢の苗植え体験を行った。

植えた後も、自分自身で育て実を取り食べるまで体験することで、栽培の大変さや実ができたときの喜びを感じる貴重な体験活動が行えた。



③NPO 法人熊谷ピンクリボンの会による「がん教育と命の学習」

NPO法人熊谷ピンクリボンの会をお招きして「がん教育 生命の授業」を実施した。講師の中には、吉見町 町長 宮崎善雄 様にもご来校いただき「がん患者の家族の想い」について講演いただいた。児童からは、「がんは命を奪う 怖い病気だからこそ、早めに検診に行くように家族に話をしたい」「毎日毎日を大切に生きていきたい」といった話が聞け実りある貴重な機会となった。また、講演会終了後には、保護者を対象としたミニ乳がん検診講座を開催した。



④東京理科大連携「紙飛行機教室」

東京理科大と連携し、教授に講師として学校に来ていただき紙飛行機教室を実施した。「物理的・数学的な根拠を基によく飛ぶ紙飛行機」を作り、飛ばす活動をとおして、子供たちは座学では学べない実体験をもとにした物理学の勉強をすることができた。

「角度によって飛ぶ時間がちがう」「強く投げるよりもやさしく投げた時のほうが長く飛んだ」など充実した学びとなった。



④ヒートベアーズによる投げ方教室

埼玉県に本拠地を置くルートインBCリーグ所属のプロ野球チーム「武蔵ヒートベアーズ」と連携を図り、プロ野球選手による投げ方教室を行った。投力は本校の課題であり、投げる際の体の使い方や遠くに投げるポイントなどを教わった。家庭でもできる投力向上の運動なども教えていただき、憧れのプロ野球選手から教わる丁寧な指導に児童たちは、目を輝かせながら練習に取り組んでいた。



⑤地域の見守り隊への感謝の会（全校児童）

本校には、読み聞かせや安全パトロール、環境整備と3つの学校応援団組織があり、日々本校の教育活動の推進にご協力いただいている。年度末には、各学年からのお礼の手紙と共に1年生が育てた朝顔の種をプレゼントし感謝の気持ちを伝えている。

児童たちは、感謝の気持ちを直接伝える機会とともに日々たくさんの方に支えてもらっていることを知るよい機会となっている。



⑥町内の他校連携

本町は令和10年に小学校6校を1校に統合再編の計画がある。統廃合後にスムーズな学校生活が送れるように他校の児童と交流会を行ったり、合同社会科見学を行っている。最初は緊張していた児童も交流するなかで名前を覚えたり、他校の児童と積極的にコミュニケーションをとる姿が見られた。



4 成果と課題

（１）研究の成果

様々な地域人材を活用し多様な体験活動を行うことで、自己肯定感を高めながら、コミュニケーション能力の育成を図ることができた。また、他者と交流する中で相手のことを思いやる、心豊かな児童の育成も行えた。iPadや一人一台端末を活用することで、他校との交流や児童相互の情報伝達能力の向上に役立った。

（２）今後の課題

体験学習を更に充実させていくためには、地域の人材の発掘とその活用方法を学校として考えていかなければならない。また、通常の学習とのつながりや系統性を意識して学習指導を行う必要がある。そのため、年度ごとに活動の振り返りを丁寧に行い、次年度につなげていく必要がある。